

公 開
資 料 3

第 3 5 3 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和5年9月25日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 規則関係						
提案1	「ビデオ会議の実施について」の一部を改正すること	会長	5	「ビデオ会議の実施について」について、「ビデオ会議」を「オンライン会議」に修正する等所要の改正を行う必要があるため。	会長	—
提案2	「委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン」の一部を改正すること	会長	9	「委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン」について、「ビデオ会議」を「オンライン会議」に修正する改正を行う必要があるため。	会長	—
提案3	「メール審議の実施について」の一部を改正すること	会長	11	「メール審議の実施について」について、「ビデオ会議」を「オンライン会議」に修正する改正を行う必要があるため。	会長	—
提案4	「委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について」の一部を改正すること	会長	13	「委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について」について、特任連携会員に関する規定を改正する必要があるため。	会長	—
提案5	「特任連携会員の推薦様式について」の一部を改正すること	会長	17	「特任連携会員の推薦様式について」について、特任連携会員に関する規定を改正する必要があるため。	会長	—
提案6	「委員会、分科会等の委員の推薦様式について」の一部を改正すること	会長	21	「委員会、分科会等の委員の推薦様式について」について、特任連携会員に関する規定を改正する必要があるため。	会長	—
提案7	「補欠の会員の選考手続について」の一部を改正すること	会長	23	「補欠の会員の選考手続について」について、特任連携会員に関する規定を改正する必要があるため。	会長	—
提案8	「定年又は任期満了により退任する会員の連携会員への就任について」の一部を改正すること	会長	25	「定年又は任期満了により退任する会員の連携会員への就任について」について、特任連携会員に関する規定を改正する必要があるため。	会長	—
提案9	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」の一部を改正すること	会長	27	「日本学術会議分野別委員会及び分科会等について」について、特任連携会員に関する規定等所要の改正を行う必要があるため。	会長	—
2. 提言等関係						
提案10	提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料、記録、記憶の保全と継承のために」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	史学委員会委員長	別冊1	史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表することとした。 ※科学的助言等対応委員会査読	史学委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会若尾政希委員長、飯島渉委員	内規2条5項

提案11	提言「革新的医療製品の評価技術を迅速に適格性認定するための5つの提言」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	薬学委員会委員長、政治学委員会委員長、基礎医学委員会委員長、総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長、材料工学委員会委員長	別冊2	薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表することとしたい。 ※科学的助言等対応委員会査読	薬学委員会・政治学委員会・基礎医学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・材料工学委員会合同先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会加納信吾委員長	内規2条5項
提案12	提言「未来の学術振興構想（2023年版）」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	科学者委員会委員長	別冊3	科学者委員会学術研究振興分科会において、提言をとりまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表することとしたい。 ※科学的助言等対応委員会査読	科学者委員会学術研究振興分科会光石衛委員長、同分科会山崎典子幹事	内規2条5項
提案13	回答「論文の査読に関する審議について」について日本学術会議会則第2条第6号の「回答」として取り扱うこと	科学者委員会委員長	別冊4	科学者委員会学術体制分科会において、回答をとりまとめたので、文部科学省に対する回答として、これを外部に公表することとしたい。 ※科学的助言等対応委員会査読	科学者委員会学術体制分科会論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会佐々木裕之委員長	意思の表出等の作成手続について I 3(3)

3. 国際関係

提案14	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	33	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。 ※国際委員会9月22日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会9月13日承認	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規57条
------	---	----	----	--	-------	----------------------

4. シンポジウム等

提案15	公開シンポジウム「東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	35	主催：日本学術会議食料科学委員会、農学委員会、食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会 日時：令和5年11月11日（土）13：00～16：45 場所：東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」の開催について	農学委員会委員長	37	主催：日本学術会議農学委員会、農学委員会植物保護科学分科会 日時：令和5年12月2日（土）13：00～16：50 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

提案17	公開シンポジウム「第13回計算力学シンポジウム」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	39	主催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会 日時：令和5年12月4日（月）10：00～17：30 場所：日本学術会議講堂、外1会議室（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム「「データサイエンス国際シンポジウム2023」—アジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築— International Symposium on Data Science (DSWS-2023) —Building an Open—Data Collaborative Network in the Asia—Oceania Area —」の開催について	情報学委員会委員長	43	主催：情報学委員会、情報学委員会国際サイエンスデータ分科会、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 日時：令和5年12月12日（火）13：30～17：30、12月13日（水）10：00～17：30、12月14日（木）10：00～17：30、12月15日（金）10：00～17：30 場所：日本学術会議講堂、外1会議室（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム「水産・海洋分野におけるAIの役割と課題」の開催について	食料科学委員会委員長	57	主催：日本学術会議食料科学委員会、食料科学委員会水産学分科会 日時：令和5年12月15日（金）13：00～17：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2023」の開催について	総合工学委員会委員長	61	主催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会原子力安全に関する分科会 日時：令和6年1月22日（月）13：00～17：10 場所：日本学術会議講堂、外1会議室（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2

5. 後援

提案21	国内会議の後援をすること	会長	63	以下について、後援の申請があり、関係する委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

6. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和5年10月3日（火）17:00～開催。	65

ビデオ会議の実施について（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p style="text-align: center;"><u>オンライン会議</u>の実施について</p> <p>日本学術会議における<u>会議</u>（総会及び部会を除く。）の開催に当たっては、<u>オンライン会議</u>の実施を推進することとし、具体的には以下に定める要領に従うこととする。</p> <p>1 <u>オンライン会議</u>とは、次の各号の要件すべてに合致する会議をいう。</p> <p>(1) 日本学術会議庁舎以外の場所から参加する者（以下「遠隔地参加者」という。）が、<u>情報通信機器及びオンライン会議ソフト</u>を用いて音声及び映像を即時に他の参加者に伝達すること（遠隔地参加者間の伝達を含む。）により、参加者が一堂に会するのと同等の議論を行えるものであること</p> <p>(2) 遠隔地参加者を画面上で確認できること</p> <p>2 <u>本決定は、日本学術会議における会議</u>（総会及び部会を除く。以下「委員会等」という。）に<u>適用するものとする。</u></p> <p>3 非公開案件については、原則として、<u>オンライン会議</u>の対象とする。ただし、各委員会等の長が、案件の内容に照らして適当でないと判断した場合は、対象から除くことができる。非公開案件を審議する際、遠隔地参加者は、遠隔地において審議を傍聴する者がいないことを確認する。</p> <p>4 <u>オンライン会議</u>による参加は、日本学術会議会則（平成17年</p>	<p style="text-align: center;"><u>ビデオ会議</u>の実施について</p> <p>日本学術会議における<u>会議開催</u>に当たっては、<u>ビデオ会議</u>の実施を推進することとし、具体的には以下に定める要領に従うこととする。</p> <p>1 <u>ビデオ会議</u>とは、次の各号の要件すべてに合致する会議をいう。</p> <p>(1) 日本学術会議庁舎以外の場所から参加する者（以下「遠隔地参加者」という。）が、<u>電気通信技術とビデオ会議ソフト（スカイプ等）</u>を用いて音声及び映像を即時に他の参加者に伝達すること（遠隔地参加者間の伝達を含む。）により、参加者が一堂に会するのと同等の議論を行えるものであること</p> <p>(2) 遠隔地参加者を画面上で確認できること</p> <p>2 <u>ビデオ会議は、幹事会、委員会、分科会、小分科会及び小委員会</u>（以下「委員会等」という。）に<u>おいて実施することができる。</u></p> <p>3 非公開案件については、原則として、<u>ビデオ会議</u>の対象とする。ただし、各委員会等の長が、案件の内容に照らして適当でないと判断した場合は、対象から除くことができる。非公開案件を審議する際、遠隔地参加者は、遠隔地において審議を傍聴する者がいないことを確認する。</p> <p>4 <u>ビデオ会議</u>による参加は、日本学術会議会則（平成17年10月</p>

<p>10月24日日本学術会議規則第3号)第31条及び日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)第20条において準用する日本学術会議法(昭和23年7月10日法律第121号)第24条第1項の出席として扱う<u>こととする。</u></p>	<p>24日日本学術会議規則第3号)第31条及び日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)第20条において準用する日本学術会議法(昭和23年7月10日法律第121号)第24条第1項の出席として扱う<u>こととし、ビデオ会議は、第1項の要件及び定足数を満たすことによつて成立する。</u></p>
<p>5 (削除)</p>	<p>5 <u>ビデオ会議を実施する場合には、当該委員会等の招集者は、あらかじめ事務局にその旨を申し出た上で、会議開催通知を发出することとする。会議開催日程の決定に際しては、事務局は、機材の状況等を踏まえ、必要に応じ、調整を行うこととする。</u></p>
<p>6 (削除)</p>	<p>6 <u>ビデオ会議の参加者が、ヘッドセット、ウェブカメラを使用できる環境にない場合、保有台数の範囲内で、事務局は前日までにヘッドセット及びウェブカメラを当該参加者に送付することとする。当該参加者は、会議終了後、1週間以内にヘッドセット及びウェブカメラを受取人着払いで返送することとする。</u></p>
<p>7 (削除)</p>	<p>7 <u>ビデオ会議を実施する場合の資料については、会議開催日の2日前(行政機関の休日を除く。)までに電子メール又は郵便等で事務局に送付することとする。事務局は当該資料をメールで送付もしくは掲示板に掲示することとする。ただし、幹事会については、日本学術会議の運営に関する内規(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)第7条第4項及び第8条第1項に定めるとおりとする。</u></p>
<p>8 (略)</p>	<p>8 (同左)</p>

<p>9 <u>オンライン会議</u>の実施に当たっては、個人情報の漏えい防止など、セキュリティには十分配慮することとする。</p>	<p>9 <u>ビデオ会議</u>の実施に当たっては、個人情報の漏えい防止など、セキュリティには十分配慮することとする。</p>
<p>10 <u>オンライン会議</u>の実施に際しては、事務局の職員が必要な支援を行うこととする。</p>	<p>10 <u>ビデオ会議</u>の実施に際しては、事務局の職員が必要な支援を行うこととする。</p>
<p>11 (略)</p>	<p>11 (同左)</p>

附 則 (令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)
この決定は、令和5年10月1日から施行する。

委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン（平成30年3月30日日本学術会議第261回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>4. 議事要旨への記載事項</p> <p>(1) ①～③ (略)</p> <p>④ 出席者</p> <p>原則として、会議等に参加した者の氏名（名簿を別途公開している場合には姓のみでも可）を記載する。<u>オンライン会議</u>による参加の場合は、その旨がわかる記載とする。</p>	<p>4. 議事要旨への記載事項</p> <p>(1) ①～③ (同左)</p> <p>④ 出席者</p> <p>原則として、会議等に参加した者の氏名（名簿を別途公開している場合には姓のみでも可）を記載する。<u>ビデオ会議</u>による参加の場合は、その旨がわかる記載とする。</p>

附 則（令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、令和5年10月1日から施行する。

メール審議の実施について（平成25年9月24日日本学術会議第178回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>1. メール審議の定義</p> <p>メール審議とは事前の「SCJ Member Forum」内掲示板における意見交換又は質疑応答（以下「掲示板意見交換」という。）及び電子メールによる議決（以下「メール議決」という。）とで構成されるものとする。このうちメール議決は、日本学術会議会則（平成17年10月24日日本学術会議規則第3号）第22条、第26条及び第31条、日本学術会議の運営に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）第20条に基づき、日本学術会議法（昭和23年7月10日法律第121号）第24条第1項及び第2項又はこれを準用した会議（以下「<u>面談会議又はオンライン会議</u>」という。）を開催せずとも、部会、連合部会、幹事会、委員会、分科会、小分科会及び小委員会（以下「委員会等」という。）の議決とするものである。電子メール等を利用して随時行われる委員会等内での意見交換は、メール審議には含めないこととする。</p> <p>2. メール審議の対象議案</p> <p>メール審議は、止むを得ない事情により時間的余裕が少ない、通常の場合から判断して審議時間を多く要しない等の理由により、各部長、連合部会及び幹事会の議長又は各委員長（以下「委員長」という。）が面談会議又は<u>オンライン会議</u>を開催して議決するよりも適当であると判断する議案について実施する。</p> <p>3～11 （略）</p>	<p>1. メール審議の定義</p> <p>メール審議とは事前の「SCJ Member Forum」内掲示板における意見交換又は質疑応答（以下「掲示板意見交換」という。）及び電子メールによる議決（以下「メール議決」という。）とで構成されるものとする。このうちメール議決は、日本学術会議会則（平成17年10月24日日本学術会議規則第3号）第22条、第26条及び第31条、日本学術会議の運営に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）第20条に基づき、日本学術会議法（昭和23年7月10日法律第121号）第24条第1項及び第2項又はこれを準用した会議（以下「<u>面談会議又はビデオ会議</u>」という。）を開催せずとも、部会、連合部会、幹事会、委員会、分科会、小分科会及び小委員会（以下「委員会等」という。）の議決とするものである。電子メール等を利用して随時行われる委員会等内での意見交換は、メール審議には含めないこととする。</p> <p>2. メール審議の対象議案</p> <p>メール審議は、止むを得ない事情により時間的余裕が少ない、通常の場合から判断して審議時間を多く要しない等の理由により、各部長、連合部会及び幹事会の議長又は各委員長（以下「委員長」という。）が面談会議又は<u>ビデオ会議</u>を開催して議決するよりも適当であると判断する議案について実施する。</p> <p>3～11 （同左）</p>

附 則（令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、令和5年10月1日から施行する。

委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について（平成 23 年 12 月 21 日日本学術会議第 142 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p>委員会及び分科会等に係る<u>連携会員（特任）</u>の選考の在り方について</p> <p>委員会及び分科会等（分科会及び小分科会をいう。以下同じ。）に係る<u>連携会員（特任）</u>（日本学術会議会則第 7 条第 1 項に定める連携会員をいう。以下同じ。）の選考の在り方について、日本学術会議内で共通認識を持つために、幹事会として整理した。</p> <p>（推薦）</p> <p>第 1 <u>連携会員（特任）</u>の推薦は次の各号により行うものとする。</p> <p>(1) 委員会及び分科会等の審議に参画する<u>連携会員（特任）</u>の推薦（副会長による推薦及び第 4 項各号に規定する推薦の場合を除く。）を行う際は、各部は、第 2 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、各部の長の事前の了承の下、事務局を經由して幹事会に提案する。</p> <p>第 4 項各号に規定する推薦の場合には、同項に規定する「幹事会が別に定める会議」が第 2 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、事務局を經由して幹事会に提案する。</p> <p>なお、いずれの場合においても、幹事会に提案する前に、本人の内諾を得ておくこと。</p> <p>(2) 国際会議等への代表派遣を目的とする<u>連携会員（特任）</u>の推薦を行う際は、国際委員会は、第 3 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、事務局を經由して幹事会に提案する。なお、幹事会に提案する前に、本人の内諾を得ておくこと。</p>	<p>委員会及び分科会等に係る<u>特任連携会員</u>の選考の在り方について</p> <p>委員会及び分科会等（分科会及び小分科会をいう。以下同じ。）に係る<u>特任連携会員</u>（日本学術会議会則第 7 条第 1 項に定める連携会員をいう。以下同じ。）の選考の在り方について、日本学術会議内で共通認識を持つために、幹事会として整理した。</p> <p>（推薦）</p> <p>第 1 <u>特任連携会員</u>の推薦は次の各号により行うものとする。</p> <p>(1) 委員会及び分科会等の審議に参画する<u>特任連携会員</u>の推薦（副会長による推薦及び第 4 項各号に規定する推薦の場合を除く。）を行う際は、各部は、第 2 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、各部の長の事前の了承の下、事務局を經由して幹事会に提案する。</p> <p>第 4 項各号に規定する推薦の場合には、同項に規定する「幹事会が別に定める会議」が第 2 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、事務局を經由して幹事会に提案する。</p> <p>なお、いずれの場合においても、幹事会に提案する前に、本人の内諾を得ておくこと。</p> <p>(2) 国際会議等への代表派遣を目的とする<u>特任連携会員</u>の推薦を行う際は、国際委員会は、第 3 項に規定する選考要件に基づき審査を行い、事務局を經由して幹事会に提案する。なお、幹事会に提案する前に、本人の内諾を得ておくこと。</p>

(委員会、分科会等への審議参画のための選考要件)

第2 委員会及び分科会等の審議に参画する連携会員(特任)の選考要件は、次の各号のとおりとする。

(1) 連携会員等との関係

委員会及び分科会等は、会員又は連携会員(連携会員(特任))を除く。以下この号、第4号及び第3項第1号において同じ。)で構成することを原則とする。連携会員(特任)の任命は、会員、連携会員の中に、国際業務や特定の専門的事項に係る深い見識を有する専門家がおらず、会員、連携会員のみでは十分な審議をすることが困難である場合に限る。

なお、国際学術団体の役員であることを理由として連携会員(特任)を任命する必要がある場合には、原則として、当該団体の代表及びそれに準ずる役員(運営組織の役員)を対象とする。

(2) 連携会員(特任)の任期

任期は、原則として、常設の委員会又は分科会等に参画する場合は期末までとし、時限設置の委員会又は分科会等に参画する場合は当該委員会又は分科会等の設置期限満了までとする。

なお、国際学術団体の役員であることを理由として任命された連携会員(特任)の任期は当該役員の任期内に限るものとする。

(3) 委員構成に占める割合

ア 委員会及びこれに置かれる分科会等の連携会員(特任)数は、それぞれ次に掲げる人数を超えないものとする。

(ア) (略)

(イ) (略)

イ アに規定する基準によると十分な審議をすることが困難である特段の事情がある場合は、ウに規定する手続を経て、それ

(委員会、分科会等への審議参画のための選考要件)

第2 委員会及び分科会等の審議に参画する特任連携会員の選考要件は、次の各号のとおりとする。

(1) 連携会員等との関係

委員会及び分科会等は、会員又は連携会員(特任連携会員を除く。以下この号、第4号及び第3項第1号において同じ。)で構成することを原則とする。特任連携会員の任命は、会員、連携会員の中に、国際業務や特定の専門的事項に係る深い見識を有する専門家がおらず、会員、連携会員のみでは十分な審議をすることが困難である場合に限る。

なお、国際学術団体の役員であることを理由として特任連携会員を任命する必要がある場合には、原則として、当該団体の代表及びそれに準ずる役員(運営組織の役員)を対象とする。

(2) 特任連携会員の任期

任期は、原則として、常設の委員会又は分科会等に参画する場合は期末までとし、時限設置の委員会又は分科会等に参画する場合は当該委員会又は分科会等の設置期限満了までとする。

なお、国際学術団体の役員であることを理由として任命された特任連携会員の任期は当該役員の任期内に限るものとする。

(3) 委員構成に占める割合

ア 委員会及びこれに置かれる分科会等の特任連携会員数は、それぞれ次に掲げる人数を超えないものとする。

(ア) (同左)

(イ) (同左)

イ アに規定する基準によると十分な審議をすることが困難である特段の事情がある場合は、ウに規定する手続を経て、それ

それぞれに掲げる人数を超えない限りで、連携会員（特任）を任命することができる。

(ア) (略)

(イ) (略)

ウ (略)

(4) 連携会員（特任） 数

連携会員（特任）は連携会員を補完するという位置づけであることに鑑み、その総数は連携会員と連携会員（特任）を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。

当分の間、部ごと（部がつかさどる科学分野ごと）の連携会員（特任）数の上限及び国際業務に携わる連携会員（特任）数の上限の設定は行わないが、上記の10%程度の上限を念頭に、抑制的に、幹事会において適宜、調整を図ることとする。

(代表派遣のための選考要件)

第3 国際会議等への代表派遣を目的とする連携会員（特任）の選考要件は、次の各号のとおりとする。

(1) 連携会員（特任）の選考

日本学術会議を代表して国際会議等における特定の業務のために会員、連携会員以外の専門家を派遣する際には、所与の目的を果たすべく適任者を選考することとする。

(2) 連携会員（特任）の任期

国際会議等への代表派遣を目的とする選考において連携会員（特任）を任命するときには、その任期は派遣準備から出張報告提出までの必要最小限の短期間に限定することとする。

(別に定める会議)

それぞれに掲げる人数を超えない限りで、特任連携会員を任命することができる。

(ア) (同左)

(イ) (同左)

ウ (同左)

(4) 特任連携会員数

特任連携会員は一般の連携会員を補完するという位置づけであることに鑑み、その総数は一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。

当分の間、部ごと（部がつかさどる科学分野ごと）の特任連携会員数の上限及び国際業務に携わる特任連携会員数の上限の設定は行わないが、上記の10%程度の上限を念頭に、抑制的に、幹事会において適宜、調整を図ることとする。

(代表派遣のための選考要件)

第3 国際会議等への代表派遣を目的とする特任連携会員の選考要件は、次の各号のとおりとする。

(1) 特任連携会員の選考

日本学術会議を代表して国際会議等における特定の業務のために会員、連携会員以外の専門家を派遣する際には、所与の目的を果たすべく適任者を選考することとする。

(2) 特任連携会員の任期

国際会議等への代表派遣を目的とする選考において特任連携会員を任命するときには、その任期は派遣準備から出張報告提出までの必要最小限の短期間に限定することとする。

(別に定める会議)

<p>第4 (略)</p> <p>(その他)</p> <p>第5 <u>連携会員(特任)</u>の推薦は、次の各号により行うものとする。</p> <p>(1) 推薦は、「<u>連携会員(特任)</u>の推薦様式について」(平成24年1月27日日本学術会議第144回幹事会決定)で定める推薦様式により行うものとする。</p> <p>(2) (略)</p>	<p>第4 (同左)</p> <p>(その他)</p> <p>第5 <u>特任連携会員</u>の推薦は、次の各号により行うものとする。</p> <p>(1) 推薦は、「<u>特任連携会員</u>の推薦様式について」(平成24年1月27日日本学術会議第144回幹事会決定)で定める推薦様式により行うものとする。</p> <p>(2) (同左)</p>
--	--

附 則 (令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)

この決定は、令和5年10月1日から施行する。

特任連携会員の推薦様式について（平成 24 年 1 月 27 日日本学術会議第 144 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正 後	改正 前																																				
<p><u>連携会員（特任）</u>の推薦様式について</p> <p>日本学術会議の運営に関する内規（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）第 6 条の 2 による連携会員（以下「<u>連携会員（特任）</u>」という。）の推薦については、次の様式により行うものとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">様 式 1</div> <p style="text-align: right;">（ 日 付 ）</p> <p>日本学術会議会長</p> <p style="padding-left: 40px;">○○ ○○ 殿</p> <p style="text-align: right; padding-right: 40px;">○○ ○○</p> <p>表 1 の（委員会の審議事項／国際業務）に参画するため、表 2 の者を<u>連携会員（特任）</u>（日本学術会議会則第 7 条第 1 項に基づき任命する連携会員）の候補者として推薦します。</p> <p>（表 1）（略）</p> <p>（表 2）<u>連携会員（特任）</u> 候補者</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>国籍</th> <th>年齢</th> <th>性別</th> <th>現 職</th> <th>専門分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	氏名	国籍	年齢	性別	現 職	専門分野													<p><u>特任連携会員</u>の推薦様式について</p> <p>日本学術会議の運営に関する内規（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）第 6 条の 2 による連携会員（以下「<u>特任連携会員</u>」という。）の推薦については、次の様式により行うものとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">様 式 1</div> <p style="text-align: right;">（ 日 付 ）</p> <p>日本学術会議会長</p> <p style="padding-left: 40px;">○○ ○○ 殿</p> <p style="text-align: right; padding-right: 40px;">○○ ○○</p> <p>表 1 の（委員会の審議事項／国際業務）に参画するため、表 2 の者を<u>特任連携会員</u>（日本学術会議会則第 7 条第 1 項に基づき任命する連携会員）の候補者として推薦します。</p> <p>（表 1）（同左）</p> <p>（表 2）<u>特任連携会員</u> 候補者</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>国籍</th> <th>年齢</th> <th>性別</th> <th>現 職</th> <th>専門分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	氏名	国籍	年齢	性別	現 職	専門分野												
氏名	国籍	年齢	性別	現 職	専門分野																																
氏名	国籍	年齢	性別	現 職	専門分野																																

(表3) 選考要件についての説明

※ 国際会議への代表派遣の場合、表3は記入不要

氏名	理由説明
	<p>※<u>連携会員（特任）</u>を推薦するにあたり、下記の点を明確にして、理由を説明してください。（①～④は必須、⑤は該当する場合のみ）</p> <p>①当該<u>連携会員（特任）</u>なしでは十分な審議が困難である理由</p> <p>②会員、連携会員の中に、同等の専門家がないことについて</p> <p>③候補者の任期</p> <p>④現時点での当該委員会・分科会における<u>連携会員（特任）</u>の数（比率）</p> <p>⑤（国際の場合）国際関係団体との関係</p>

特段の事情

※「委員会及び分科会等に係る連携会員（特任）の選考の在り方について」（日本学術会議第142回幹事会決定）第2（3）イに該当する事情がある場合、記載してください。

注1) 添付資料として、①日本学術会議連携会員（特任）候補者推薦書（様式2）、②委員会、分科会等の委員名簿（様式3）を添付する（国際会議への代表派遣の場合は不要）。

注2) 連携会員（特任）は連携会員を補完するという位置づけで

(表3) 選考要件についての説明

※ 国際会議への代表派遣の場合、表3は記入不要

氏名	理由説明
	<p>※<u>特任連携会員</u>を推薦するにあたり、下記の点を明確にして、理由を説明してください。（①～④は必須、⑤は該当する場合のみ）</p> <p>①当該<u>特任連携会員</u>なしでは十分な審議が困難である理由</p> <p>②会員、連携会員の中に、同等の専門家がないことについて</p> <p>③候補者の任期</p> <p>④現時点での当該委員会・分科会における<u>特任連携会員</u>の数（比率）</p> <p>⑤（国際の場合）国際関係団体との関係</p>

特段の事情

※「委員会及び分科会等に係る特任連携会員の選考の在り方について」（日本学術会議第142回幹事会決定）第2（3）イに該当する事情がある場合、記載してください。

注1) 添付資料として、①日本学術会議特任連携会員候補者推薦書（様式2）、②委員会、分科会等の委員名簿（様式3）を添付する（国際会議への代表派遣の場合は不要）。

注2) 特任連携会員は一般の連携会員を補完するという位置づけ

<p>あることに鑑み、その総数は<u>連携会員</u>と<u>連携会員（特任）</u>を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。</p> <p>注3) 委員構成に占める<u>連携会員（特任）</u>の割合は、それぞれ次に掲げる人数を超えないものとする。</p> <p>(ア)～(イ) (略)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">様 式 3</div> <p>現委員名簿</p> <p style="text-align: center;">(委 員 会 ・ 分 科 会 等 の 名 称)</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>※備考欄には「第○部会員」「<u>連携会員</u>」「<u>連携会員（特任）</u>」の区分を記入する。</p>	<p>であることに鑑み、その総数は<u>一般の連携会員</u>と<u>特任連携会員</u>を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用する。</p> <p>注3) 委員構成に占める<u>特任連携会員</u>の割合は、それぞれ次に掲げる人数を超えないものとする。</p> <p>(ア)～(イ) (同左)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;">様 式 3</div> <p>現委員名簿</p> <p style="text-align: center;">(委 員 会 ・ 分 科 会 等 の 名 称)</p> <p style="text-align: center;">(同左)</p> <p>※備考欄には「第○部会員」「<u>連携会員</u>」「<u>特任連携会員</u>」の区分を記入する。</p>
--	--

附 則 (令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)
この決定は、令和5年10月1日から施行する。

委員会、分科会等の委員の推薦様式について（平成 18 年 2 月 23 日日本学術会議第 9 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前
<p data-bbox="181 256 338 296">様式</p> <p data-bbox="181 357 255 389">(略)</p> <p data-bbox="165 453 1093 625">*備考欄には「第〇部会員」「連携会員」「<u>連携会員（特任）</u>」の区分を記入するとともに、「<u>連携会員（特任）</u>」の場合には、「<u>連携会員（特任）の推薦様式について</u>」（平成 24 年 1 月 27 日日本学術会議第 144 回幹事会決定）に定める様式を添付する。</p>	<p data-bbox="1144 256 1301 296">様式</p> <p data-bbox="1144 357 1249 389">(同左)</p> <p data-bbox="1128 453 2083 625">*備考欄には「第〇部会員」「連携会員」「<u>特任連携会員</u>」の区分を記入するとともに、「<u>特任連携会員</u>」の場合には、「<u>特任連携会員の推薦様式について</u>」（平成 24 年 1 月 27 日日本学術会議第 144 回幹事会決定）に定める様式を添付する。</p>

附 則（令和 5 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、令和 5 年 1 0 月 1 日から施行する。

補欠の会員の選考手続について（平成 18 年 6 月 22 日日本学術会議第 18 回幹事会申合せ）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
<p>1～2 （略）</p> <p>3. 依頼を受けた部は、<u>連携会員</u>の中から 3 人以内の複数の候補者を選定し、別紙様式により選考委員会に推薦する。依頼を受けた部における候補者の選定に際しては、選出しようとする分野の学問的専門性を踏まえた審議に加え、当該分野に隣接する分野の委員の参画を得て、より多面的な視点から審議を行う。</p> <p>4～7 （略）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> 推薦書 (補欠会員候補者関係) </div> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;"><別紙様式 1 ></p> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;">令和 年 月 日</p> <p style="margin: 10px auto;">選考委員会委員長 ○ ○ ○ ○ あて</p> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;">第○部部長 ○ ○ ○ ○</p> <p style="margin: 10px auto;">定年（又は 死亡、辞職、免職）により退任予定の（又は 退任した）○○ ○○会員の後任者として、<u>連携会員</u>である別紙の者を推薦します。</p>	<p>1～2 （同左）</p> <p>3. 依頼を受けた部は、<u>一般の連携会員</u>の中から 3 人以内の複数の候補者を選定し、別紙様式により選考委員会に推薦する。依頼を受けた部における候補者の選定に際しては、選出しようとする分野の学問的専門性を踏まえた審議に加え、当該分野に隣接する分野の委員の参画を得て、より多面的な視点から審議を行う。</p> <p>4～7 （略）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> 推薦書 (補欠会員候補者関係) </div> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;"><別紙様式 1 ></p> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;">令和 年 月 日</p> <p style="margin: 10px auto;">選考委員会委員長 ○ ○ ○ ○ あて</p> <p style="text-align: center; margin: 10px auto;">第○部部長 ○ ○ ○ ○</p> <p style="margin: 10px auto;">定年（又は 死亡、辞職、免職）により退任予定の（又は 退任した）○○ ○○会員の後任者として、<u>一般の連携会員</u>である別紙の者を推薦します。</p>

附 則（令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、令和5年10月1日から施行する。

定年又は任期満了により退任する会員の連携会員への就任について（平成 18 年 6 月 22 日日本学術会議第 18 回幹事会申合せ）の一部を次のように改正する。

改正 後	改正 前
<p>会員が定年又は任期満了により退任するに際しては、引き続き<u>連携会員</u>として日本学術会議の活動に参画することが必要かつ適当と認められる場合が多いと考えられる。この場合、退任する会員を直ちに連携会員に就任させるためには、連携会員の通常の選考手続によることができず、特別の手続を必要とするので、当面、以下に定める要領に従って選考を行うものとする。</p> <p>1～5 （略）</p>	<p>会員が定年又は任期満了により退任するに際しては、引き続き<u>一般の連携会員</u>として日本学術会議の活動に参画することが必要かつ適当と認められる場合が多いと考えられる。この場合、退任する会員を直ちに連携会員に就任させるためには、連携会員の通常の選考手続によることができず、特別の手続を必要とするので、当面、以下に定める要領に従って選考を行うものとする。</p> <p>1～5 （同左）</p>

附 則（令和 5 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、令和 5 年 1 0 月 1 日から施行する。

日本学術会議分野別委員会及び分科会等について（平成 20 年 10 月 23 日日本学術会議第 67 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後					改正前				
<p>I 日本学術会議会員及び連携会員について</p> <p>1. (略)</p> <p>2. 身分</p> <p>会員は非常勤の特別職の国家公務員、連携会員は非常勤の一般職の国家公務員です（注2）。このため、手当・旅費の支給等については、国家公務員に対する条件が当てはめられます。</p> <p>会員及び連携会員の位置付けは、次頁の表のとおりです。</p> <p>（注2）国家公務員法第2条第1項から第3項まで</p> <p style="text-align: center;">会員と連携会員の位置付け</p>					<p>I 日本学術会議会員及び連携会員について</p> <p>1. (同左)</p> <p>2. 身分</p> <p>会員は非常勤の特別職の国家公務員、連携会員は非常勤の一般職の国家公務員です（注2）。このため、手当・旅費の支給等については、国家公務員に対する条件が当てはめられます。</p> <p>会員及び連携会員の位置付けは、次頁の表のとおりです。</p> <p>（注2）国家公務員法第2条第1項から第3項まで</p> <p style="text-align: center;">会員と連携会員の位置付け</p>				
種別（根拠規定）	役割等	選考・任命等	任期 ～ 会員・ 連携会 員候補 者の推 薦	備考（位置 付け）	種別（根拠規定）	役割等	選考・任命等	任期 ～ 会員・ 連携会 員候補 者の推 薦	備考（位置 付け）
会員 （法第7 条）	(略)	(略)	(略)	(略)	会員 （法第7 条）	(同 左)	(同左)	(同 左)	(同左)
<u>連携会員</u> （注1）	(略)	(略)	(略)	(略)	<u>一般の連 携会員</u> （注 左）	(同 左)	(同左)	(同 左)	(同左)

<p>(法第 15 条、令第 1 条第 1 項、会則第 7 条第 2 項)</p>					<p>1) (法第 15 条、令第 1 条第 1 項、会則第 7 条第 2 項)</p>				
<p><u>連携会員</u> (特任) (注 1) (法第 15 条、令第 1 条第 1 項、会則第 7 条第 1 項)</p>	<p>(略)</p>	<p>委員会の委員に委嘱すべき者を<u>連携会員(特任)</u>候補者として、別に定めのある場合を除き、原則として各部が幹事会に推薦。 幹事会が候補者を決定。(会則第 8 条第 5 項) 会長が任命。(法第 15 条第 2 項) <u>一般職の国家公務員(非常勤)</u></p>	<p>(略)</p>	<p>会員及び<u>連携会員</u>のみで担うことの困難な専門的事項の審議や国際活動に専門委員的に参画するため、必要な任期に限って任命される。</p>	<p><u>特任の連携会員</u>(注 1)(法第 15 条、令第 1 条第 1 項、会則第 7 条第 1 項)</p>	<p>(同左)</p>	<p>委員会の委員に委嘱すべき者を<u>特任の連携会員</u>候補者として、別に定めのある場合を除き、原則として各部が幹事会に推薦。 幹事会が候補者を決定。(会則第 8 条第 5 項) 会長が任命。(法第 15 条第 2 項) (加える。)</p>	<p>(同左)</p>	<p>会員及び<u>一般の連携会員</u>のみで担うことの困難な専門的事項の審議や国際活動に専門委員的に参画するため、必要な任期に限って任命される。</p>
<p>(注 1) 「<u>連携会員</u>」、「<u>連携会員(特任)</u>」等の名称は便宜上のもの。</p>					<p>(注 1) 「<u>一般の連携会員</u>」、「<u>特任の連携会員</u>」等の名称は便宜上のもの。</p>				
<p>(注 2) (略)</p>					<p>(注 2) (同左)</p>				
<p>II～III (略)</p>					<p>II～III (同左)</p>				

IV 会議の開催、手当・旅費について

① (略)

② 次回会議開催の日時は、会議の際に決めてください。後日改めて決める場合には、会議開催通知の事務手続きがありますので、遅くとも1か月以上の時間的余裕をもって開催日時を事務局へ御連絡願います。また、オンライン会議を開催される場合には、参加人数確認の必要上、会議開催通知の発出前までに事務局に御連絡いただくようお願いします。

③ 委員の2分の1(定足数)以上の出席(オンライン会議の参加者は「出席」として扱われます。以下同じ。)がなければ委員会等は成立しないため、委員会等としての決定や手当・旅費の支給等ができません(注9)。出席予定委員数が定足数を余裕をもって上回る日を開催日としてください。

なお、定足数の算定に当たって、海外赴任者(海外に居所を有し、現に海外に在る者)、出張者、災害、不測の事故又は健康上の理由で出席できない者については、委員会の構成員全体の四分の一を上限として、定足数を算定する母数から除外できるとされています(注10)。

また、委員会等で議決が必要な案件がある場合に、会議(オンライン会議を含む。以下同じ。)が開催できない時には、メールや電話、電子掲示板、スカイプその他の電気通信手段により、委員長が各委員の賛否を確認した上で、委員会等の議決とすることができます(注11)。この場合には、会議が成立したものとみなされますが、会議出席の手当・旅費は支給されませんので、あらかじめ御了承下さい。このような形で議決を行う場合は、事前に事務局に御連絡いただくとともに、通常の会議と同様に、⑥に

IV 会議の開催、手当・旅費について

① (同左)

② 次回会議開催の日時は、会議の際に決めてください。後日改めて決める場合には、会議開催通知の事務手続きがありますので、遅くとも1か月以上の時間的余裕をもって開催日時を事務局へ御連絡願います。また、ビデオ会議を開催される場合には、参加人数確認の必要上、会議開催通知の発出前までに事務局に御連絡いただくようお願いします。

③ 委員の2分の1(定足数)以上の出席(ビデオ会議の参加者は「出席」として扱われます。以下同じ。)がなければ委員会等は成立しないため、委員会等としての決定や手当・旅費の支給等ができません(注9)。出席予定委員数が定足数を余裕をもって上回る日を開催日としてください。

なお、定足数の算定に当たって、海外赴任者(海外に居所を有し、現に海外に在る者)、出張者、災害、不測の事故又は健康上の理由で出席できない者については、委員会の構成員全体の四分の一を上限として、定足数を算定する母数から除外できるとされています(注10)。

また、委員会等で議決が必要な案件がある場合に、会議(ビデオ会議を含む。以下同じ。)が開催できない時には、メールや電話、電子掲示板、スカイプその他の電気通信手段により、委員長が各委員の賛否を確認した上で、委員会等の議決とすることができます(注11)。この場合には、会議が成立したものとみなされますが、会議出席の手当・旅費は支給されませんので、あらかじめ御了承下さい。このような形で議決を行う場合は、事前に事務局に御連絡いただくとともに、通常の会議と同様に、⑥に記す

記す議事要旨を作成いただくことが必要です。

(注9) 委員会の定足数：会則第31条、分科会の定足数：内規第20条（何れも、総会の定足数について規定している法第24条第1項の準用）、「オンライン会議の実施について」（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）

④ （略）

⑤ 事務局に会議配布用資料のコピー又はオンライン会議用資料の掲示板を依頼する場合は、必ず会議開催の2日前までに原稿を事務局あてEメール又は郵便等で御送付ください（会議直前では対応できない場合があります）。会議当日に持ち込む場合は、事務局分を含む配布に必要な部数を印刷の上お持ちください。

V～VI （略）

VII 問い合わせ先一覧
（略）

○ 企画課審査係（シンポジウム等の後援名義関係）

TEL：03-3403-3768

FAX：03-3403-1260

E-mail:scj.shinsa.r8j@cao.go.jp

○ 管理課総務係（任命関係）

TEL：03-3403-2015

議事要旨を作成いただくことが必要です。

(注9) 委員会の定足数：会則第31条、分科会の定足数：内規第20条（何れも、総会の定足数について規定している法第24条第1項の準用）、「ビデオ会議の実施について」（平成24年12月21日日本学術会議第167回幹事会決定）

④ （同左）

⑤ 事務局に会議配布用資料のコピー又はビデオ会議用資料の掲示板を依頼する場合は、必ず会議開催の2日前までに原稿を事務局あてEメール又は郵便等で御送付ください（会議直前では対応できない場合があります）。会議当日に持ち込む場合は、事務局分を含む配布に必要な部数を印刷の上お持ちください。

V～VI （同左）

VII 問い合わせ先一覧
（同左）

○ 企画課審査係（シンポジウム等の後援名義関係）

TEL：03-3403-3768

FAX：03-3403-1260

（加える。）

○ 管理課総務係（任命関係）

TEL：03-3403-3793

FAX : 03-3403-1075	FAX : 03-3403-1075
(略)	(同左)
○ 管理課給与係 (手当関係)	○ 管理課給与係 (手当関係)
TEL : 03-3403- <u>2015</u>	TEL : 03-3403- <u>3793</u>
FAX : 03-3403-1075	FAX : 03-3403-1075

附 則 (令和5年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定)

この決定は、令和5年10月1日から施行する。

令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者（※1） （職名）	備 考
			計			
1	フューチャー・アースアジア地域委員会発足記念シンポジウム及び第22回アジア学術会議（SCA）	10月19日 ～ 10月21日 （※2）	3日	ソウル市 （大韓民国）／ 対面	春日 文子 連携会員 （長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、プラネタリーヘルス学環教授）	第1区分及び第3区分（※3） 日本ハブ事務局長として出席

※1 派遣候補者の会員・連携会員の種別については、第25期現在のもの。

※2 10月19日：アジア地域委員会発足記念シンポジウム

10月19～21日：第22回アジア学術会議（20日にSpecial Session dedicated to Future Earthが予定されている。）

※3 「令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針」（令和5年2月22日日本学術会議第338回幹事会決定）に基づく区分

公開シンポジウム

「東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会、農学委員会、食料科学委員会・農学委員会合
同東日本大震災に係る食料問題分科会
2. 共 催：日本農学アカデミー、公益財団法人農学会
3. 後 援：国立大学法人福島大学、国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科、
株式会社ワールドウォッチジャパン、復興農学会
4. 日 時：令和5年（2023年）11月11日（土）13：00～16：45
5. 場 所：東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

東日本大震災が起こってから12年が経ち、全国各地で復興が進んでいる。しかし、福島県では一部に帰還困難地域が残っており、耕作地の復元や担い手の育成などの課題に加え、原発の廃炉政策や処理水の海洋放出も長期に及ぶ。農林水産業の復興と食料生産を振興していく上で、多くの課題が残されている。本シンポジウムでは科学的な立場から食料生産及び流通における福島県の現状と問題点を整理し、住民に寄り添った今後の復興の進め方を議論する。

9. 次 第：

13:00 開催にあたって：

（総合司会）渡部 終五（日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部客員教授）

13:05 開会挨拶：生源寺 眞一（日本農学アカデミー会長）

13:10 企画説明：中嶋 康博（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:20 基調講演「原子力災害と風評問題－リスクと対話の在り方」：

関谷 直也（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）

14:00 休憩

- 14:15 第1報告「震災12年の取組と新しい産地形成に向けて」：
小久保 仁子（福島県相双農林事務所所長）
- 14:40 第2報告「放射能汚染対策12年の総括と科学的知見の蓄積」：
二瓶 直登（福島大学農学群食農学類教授）
- 15:05 第3報告「食農連携に向けた福島の取り組みと大学の役割」：
小山 良太（日本学術会議連携会員、福島大学農学群食農学類教授）
- 15:30 休憩
- 15:35 総合討論：
葛西 優香（東日本大震災・原子力災害伝承館研究員）
加藤 絵美（農業生産法人（株）福島市カトウファーム専務）
小松 知未（北海道大学大学院農学研究院准教授）
全ての登壇者
（司会）中嶋 康博（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 16:55 閉会挨拶：丹下 健（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会、農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本植物保護科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5年（2023年）12月2日（土）13：00 ～ 16：50
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

世界的な人口増加や異常気象の中で、食料の安定供給は一層重要な課題となっている。作物に大きな減収をもたらす主要因の一つが種々の病虫害や雑草であるが、それらから作物を防御し生産性を確保するため、作物自体の耐性強化を目指すさまざまな研究が行われている。植物保護科学分科会は、「報告：外来害虫・病原体・雑草による作物生産被害の現状と対策」をまとめ、令和5年6月23日に公表している。今回の公開シンポジウムはそのフォローアップも兼ね、「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」というタイトルとした。ここでは、最近の研究成果の講演を基に、各種ペストに対する作物の耐性強化を通じた保護について討議し、理解を深める。

9. 次 第：

13：00 開会挨拶

松本 宏（日本学術会議第二部会員、筑波大学名誉教授）

13：10 「天然生理活性物質の機能を応用した作物のストレス耐性強化」

浅見 忠男（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

（座長）松田 一彦（近畿大学農学部教授）

13：45 「病原体に対する園芸作物の耐性強化の実例と今後の方向性」

岩波 徹（東京農業大学農学部教授）

（座長）大里 修一（明治大学農学部准教授）

- 14：20 「雑草抑圧力に優れる水稻品種の作出に向けた試みー研究の進捗状況と今後の展望ー」
浅見 秀則（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター研究員）
（座長）小林 浩幸（宇都宮大学農学部雑草管理教育研究センター教授）
- 14：55 休憩
- 15：10 「ネギハモグリバエ抵抗性ネギ品種の開発と利用に向けて」
浦入 千宗（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門野菜花き育種基盤研究領域素材開発グループ研究員）
（座長）日本 典秀（京都大学農学研究科教授）
- 15：45 「根寄生雑草の種子発芽誘導物質を利用した防除法の開発」
米山 香織（埼玉大学大学院理工学研究科准教授）
（座長）岡田 憲典（東京大学大学院農学生命科学研究科附属アグロバイオテクノロジー研究センター准教授）
- 16：20 総合討論
（司会）渡辺 京子（日本学術会議連携会員、玉川大学農学部教授）
- 16：50 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「第13回計算力学シンポジウム」
の開催について

1. 主催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共催：一般社団法人可視化情報学会、特定非営利活動法人CAE懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合 (Asian Pacific Association for Computational Mechanics, APACM)、国際計算力学連合 (International Association for Computational Mechanics, IACM)
3. 後援：公益社団法人日本自動車技術会
4. 日時：令和5年(2023年)12月4日(月)10:00～17:30
5. 場所：日本学術会議講堂、会議室6-A(1) (東京都港区六本木7-22-34)
(ハイブリッド開催) (利用する会議室数1、使用目的：計算科学シミュレーションと工学設計分科会と計算力学小委員会の合同開催)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手研究者が最新の成果を披露する。日本における広い分野の計算力学研究と活用の成果をまとめて聞くことができる貴重な機会となる。また、昨今の深層学習の隆盛を念頭に、「計算力学を拡張する新技術：量子コンピューティングと生成系AI」と題した特別企画を開催し、第一線でご活躍中の研究者による講演と討論を行う。
9. 次第：
総合司会：平野 徹 (日本学術会議連携会員(特任)、ダイキン工業株式会社テクノロジーイノベーションセンターシニアスキルスペシャリスト)
- 10:00-10:10 開会の辞：
高橋 桂子 (日本学術会議連携会員、早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所上級研究員/研究院教授)
- 第I部 若手研究者による講演
- 10:10-10:30 講演1 (日本計算力学連合)

- 遊佐 泰紀 (電気通信大学大学院情報理工学研究科助教)
「固体力学問題のパラメトリック解析の並列化・自動化」
- 10:30-10:50 講演2 (日本応用数理学会)
相原 研輔 (東京都市大学情報工学部情報科学科准教授)
「大規模連立一次方程式に対する Lanczos 型反復法と残差スムージングの発展」
- 10:50-11:10 講演3 (日本計算工学会)
高木 知弘 (京都工芸繊維大学機械工学系教授)
「Phase-field 法による先進的マルチフィジックス凝固シミュレーション」
- 11:10-11:30 講演4 (CAE 懇話会)
堀江 正信 (株式会社 RICOS 最高研究開発責任者兼基盤研究部部長)
「物理現象の性質を取り入れた機械学習モデルによる数値解析の高速化」
- 11:30-11:50 講演5 (日本機械学会計算力学部門)
松永 拓也 (東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻講師)
「高精度粒子法による自由表面流れの数値解析」
- 11:50-13:00 昼休み
- 13:00-13:20 講演6 (日本計算数理工学会)
矢地 謙太郎 (大阪大学大学院工学研究科助教)
「データ駆動型トポロジー最適化次元に呪われないメタヒューリスティクスの実現に向けて」
- 13:20-13:40 講演7 (可視化情報学会)
坂本 尚久 (神戸大学大学院システム情報学研究科准教授)
「効率的な知見獲得を目指した大規模数値計算向けスマート in-situ 可視化」
- 13:40-14:00 講演8 (日本シミュレーション学会)
大西 南斗 (HEXAGON Manufacturing Intelligence division)
「昆虫羽ばたき翼における受動的運動の流体-構造連成モデル」
- 14:00-14:20 講演9 (アジア太平洋計算力学連合)
今井 陽介 (神戸大学大学院工学研究科教授)
「粘性環境でつくられる『かたち』の流体構造連成解析」
- 14:20-14:30 休憩

第Ⅱ部 特別企画「計算力学を拡張する新技術：量子コンピューティングと生成系 AI」
オーガナイザー 平野 徹 (日本学術会議連携会員 (特任)、ダイキン工業株式会社テクノロジーイノベーションセンターシニアスキルスペシャリスト)

- 14:30-15:25 特別講演1
今井 浩 (東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授)
「量子コンピューティングの可能性と量子優位性への挑戦」

15 : 25-16 : 20 特別講演 2

大上 雅史 (東京工業大学情報理工学院助教)

「生成 AI が加速する創薬・生命科学～Alpha Fold 2 の衝撃と Transformer アルゴリズム～」

16 : 30-17 : 25 総合討論

モデレーター 平野 徹 (日本学術会議連携会員 (特任)、テクノロジーイノベーションセンターダイキン工業株式会社シニアスキルスペシャリスト)

パネリスト : 第 II 部特別講演者 2 名及び下記の方々

高橋 桂子 (日本学術会議連携会員、早稲田大学総合研究機構グローバル科学知融合研究所上級研究員/研究院教授)

松尾 亜紀子 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)

17 : 25-17 : 30 閉会の辞

松尾 亜紀子 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授)

10. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員)

公開シンポジウム

「「データサイエンス国際シンポジウム 2023」

ーアジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築ー

International Symposium on Data Science (DSWS-2023)

ーBuilding an Open-Data Collaborative Network in the Asia-Oceania Areaー

の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会国際サイエンスデータ分科会、
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基
盤施設
2. 共 催：なし
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、国立研究開発法人情報通
信研究機構、国際学術会議世界データシステム、国際学術会議科学技術デ
ータ委員会
4. 日 時：令和5年（2023年）12月12日（火）13：30 ～ 17：30
12月13日（水）10：00 ～ 17：30
12月14日（木）10：00 ～ 17：30
12月15日（金）10：00 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
日本学術会議2F大会議室（シンポジウムのセッション及び実行委員会の控
室として使用）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
アジア・オセアニア地域における COVID-19 等の社会的課題や、様々な地球規模課題（パ
ンデミック・情報氾濫・地球温暖化・異常気象・地域紛争等）に関連した、多様なデー
タのアーカイブ・公開・利活用促進の現状について情報交換を行う。同地域のオープンデー
タに関係した国際ネットワーク形成や、国際的枠組みの中での具体的な連携体制を議論す
る。

*女性登壇者

12月12日(火) : (主に日本語)

総合司会 : 門倉 昭 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同
利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター長)

*金川 久美子 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス
共同利用基盤施設データサイエンス推進室特任専門員)

13:30~14:05 開催挨拶及び趣旨説明

荒木 弘之 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同
利用基盤施設長)

村山 泰啓 (日本学術会議連携会員・情報学委員会国際サイエンスデータ分科会委
員長、国立研究開発法人情報通信研究機構研究総括・ナレッジハブ
長)

澁澤 栄 (日本学術会議連携会員、アジア学術会議事務局長・財務担当役員、東京
農工大学卓越リーダー養成機構特任教授)

14:05~14:15 休憩

14:15~15:55 第1部「講演：アジア・オセアニア地域の学術データ」

司会 : 芦野 俊宏 (日本学術会議連携会員 (特任)、東洋大学国際学部教授)

14:15~14:35 講演Ⅰ「東南アジアの地域研究に関する学術データ」

原 正一郎 (京都大学東南アジア地域研究所グローバル生存基盤研究部
門連携教授)

14:35~14:55 講演Ⅱ「南アジアの大気汚染に関する学術データ～Aakash プロジェ
クトの活動から見えたこと～」

*林田 佐智子 (国立大学法人奈良国立大学機構奈良女子大学名誉教授)

14:55~15:15 講演Ⅲ「マレーシアのオープンサイエンス・イニシアティブ」

*Noorsaadah Abd Rahman (マレーシア大学先端科学研究所教授)

15:15~15:35 講演Ⅳ「生物多様性条約と遺伝資源に関するデジタル配列情報
(DSI:Digital Sequence Information) の諸課題」

有田 正規 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・シス
テム研究機構国立遺伝学研究所教授 DNA Data Bank of
Japan (DDBJ) センター長)

15:35~15:55 講演Ⅴ「データ管理における新テクノロジーと新たな機会」

Jonathan Kool (オーストラリア南極局データセンター長)

15:55~16:05 休憩

16:05~17:25 第2部「パネルディスカッション」

司会：近藤 康久（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授）

（パネリスト）

石井 守（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波伝搬研究センター長）

前田 忠彦（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センター長）

*箕輪 真理（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設データサイエンス推進室特任准教授）

松本 淳（東京都立大学都市環境科学研究科客員教授）

*春山 成子（日本学術会議第三部会員、三重大学名誉教授）

近藤 康久（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所准教授）

17：25～17：30 閉会挨拶

門倉 昭（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター長）

12月13日（水）：（全て英語）

10：00～12：05 「開会セッション・基調講演」

開会セッション司会：金尾 政紀（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター准教授）

10：00～10：40 開催挨拶

荒木 弘之（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設長）

Jonathan Kool（オーストラリア南極局データセンター長）

*小谷 元子（東北大学理事・副学長、国際学術会議科学計画委員会委員長・科学社会対応副会長）

David Castle（ビクトリア大学教授、国際学術会議世界データシステム（WDS）科学委員会委員長）

金尾 政紀（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター准教授）

10：40～10：50 休憩

- 基調講演司会：Johnathan Kool（オーストラリア南極局データセンター長）
 Juanle Wang（中国科学院地理科学与資源研究所教授）
- 10：50～11：05 基調講演1 「オープンサイエンスにおけるデータガバナンスの課題と中国の实践」
 Juanle Wang（中国科学院地理科学与資源研究所教授）
- 11：05～11：20 基調講演2 「マレーシア・オープンサイエンス・プラットフォーム（MOSP）」
 *Noorsaadah Abd Rahman（マレーシア大学先端科学研究所教授）
- 11：20～11：35 基調講演3 「GEO 寒冷地イニシアティブ（GEO Cold Regions Initiative）」
 Yubao Qiu（中国科学院航空宇宙情報研究所教授）
- 11：35～11：50 基調講演4 「国際共同データ管理－課題と機会」
 Jonathan Kool（オーストラリア南極局データセンター長）
- 11：50～12：05 ポスターセッション（ライトニングトーク 1）
- 12：05～13：00 休憩
- 13：00～14：00 ポスターセッション（コアタイム1）
- 14：00～15：30 「セッション1：データシステムとネットワークの課題」
 セッション1 司会：*Chantelle Verhey（世界データシステム（WDS）国際技術オフィス研究員）
 Jens Klump（オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）鉱物資源 主任研究員）
 Jung-Ho Um（韓国科学技術情報研究院上級研究員）
- 14：00～14：15 「AuScope 仮想研究環境（AVRE）の近代化－デザインと教訓」
 Jens Klump（オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）鉱物資源主任研究員）
- 14：15～14：30 「DataON: 研究データの発見と分析のためのプラットフォーム」
 Jung-Ho Um（韓国科学技術情報研究院上級研究員）
- 14：30～14：45 「東アジアにおける社会科学の向上：SRDA の紹介」
 *Pei-shan Liao（中央研究院人文社会科学センター教授）
- 14：45～15：00 「BigFlow: クロスセンターの科学データ分析のためのエンドツーエンドワークフロー・フレームワーク」
 *Xiaojie Zhu（中国科学院計算機ネットワーク情報センター主任研究員）
- 15：00～15：15 「極域データの検索と活用方法」
 *Chantelle Verhey（世界データシステム（WDS）国際技術オフィス 研究員）

15 : 15～15 : 30 討論

15 : 30～16 : 00 休憩

16 : 00～17 : 30 「セッション 2 : オープンサイエンスと FAIR 原則」

セッション 2 司会 : Rorie Edmunds (データサイト (DataCite) サンプルコミュニティ
マネージャー)

*Estelle Cheng (研究者識別子 (ORCID) エンゲージメントマネージャー)

16 : 00～16 : 15 「PIDs (永続的識別子) にコミットしなければ、科学をオープンにす
ることはできない」

*Estelle Cheng (研究者識別子 (ORCID) エンゲージメントマ
ネージャー)

Rorie Edmunds (データサイト (DataCite) サンプルコミュニティマネージャー)

16 : 15～16 : 27 「インドネシアにおけるオープンサイエンスと FAIR 原則」

Seno Yudhanto (インドネシア国立研究イノベーション庁研究イノベ
ーション推進副事務局長)

16 : 27～16 : 39 「IRINS : インドにおける FAIR な研究情報システムの構築」

Kannan Palavesam (インド情報図書館ネットワークセンター研究員)

16 : 39～16 : 51 「FAIR 原則を可能にするための高度な識別子アーキテクチャ : グロー
バルオープン識別子」

*Jia Liu (中国科学院計算機ネットワーク情報センター助教)

16 : 51～17 : 03 「日本におけるオープンサイエンス政策の進展 : トップダウンとボト
ムアップのバランスを取る中間セクターの重要性」

林 和弘 (日本学術会議連携会員 (特任) 、文部科学省科学技術・学
術政策研究所データ解析政策研究室室長)

17 : 03～17 : 15 「FAIR スケールを実現する」

Erik Schultes (GO FAIR 財団・ライデン薬学研究センター・研究員)

17 : 15～17 : 30 討論

12月14日 (木) : (全て英語)

10 : 00～12 : 00 「セッション 3 : COVID-19 データから得られた教訓」

セッション 3 司会 : 馬場 知哉 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データ
サイエンス共同利用基盤施設データサイエンス推進
室特任准教授)

前田 忠彦 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データ
サイエンス共同利用基盤施設社会データ構造化センター長)

- 10 : 00～10 : 20 「インド、台湾、アメリカ、日本の TQM（総合的品質管理）比較による COVID-19 マネジメントの実践と将来のパンデミック」
鈴木 和幸（電気通信大学大学院情報理工学研究科特任教授）
- 10 : 20～10 : 40 「グローバルで統合された下水サーベイランスシステムに向けて：歴史と最新の活動のレビュー」
*遠藤 礼子（京都大学流域圏総合環境質研究センター客員研究員）
- 10 : 40～11 : 00 「下水サーベイランスデータ：他国からの SARS-CoV-2 亜系統の追跡」
Jatuwat Sangsanont（タイ チュラロンコン大学環境科学部講師）
- 11 : 00～11 : 20 「先進的な下水ベースの疫学における高度なデータ科学と機械学習の活用」
Guangming Jiang（オーストラリア ウーロンゴン大学情報工学部准教授）
- 11 : 20～11 : 40 「将来のパンデミック対策に向けた建物環境におけるバイオエアロゾルの空気サーベイランス：COVID-19 を超えて」
Irvan Luhung（シンガポール 南洋理工大学社会環境工学部主任研究員）
- 11 : 40～12 : 00 「COVID-19 パンデミックにより明らかとなったデジタル配列情報（DSI）の課題」
有田 正規（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授 DNA Data Bank of Japan (DDBJ) センター長）
- 12 : 00～12 : 15 ポスターセッション（ライトニングトーク 2）
- 12 : 15～13 : 00 休憩
- 13 : 00～14 : 00 ポスターセッション（コアタイム 2）
- 14 : 00～15 : 30 「セッション 4：データサイエンスの最近の進展」
セッション 4 司会：北本 朝展（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター長）
Kassim S. Mwitondi（シェフィールド・ハラム大学 上級講師）
- 14 : 00～14 : 15 「デジタル標高データと CNN モデルを用いた丘陵地の氷河地形を再帰的に識別する方法」
Kassim S. Mwitondi（シェフィールド・ハラム大学上級講師）
- 14 : 15～14 : 30 「汚染物資の回収における衛生データセット・モデリング・及びデータ解析手法のシナジー」

- Hugo Wai Leung Mak (香港中文大学講師)
- 14 : 30~14 : 45 「宇宙科学のための AI に対する NSSDC のデータガバナンスの実践」
Zou Ziming (中国科学院国立宇宙科学研究所所長)
- 14 : 45~15 : 00 「OpenCSDB : 知識駆動型科学データのリンクと統合を可能にするシステム」
Han Fang (中国科学院計算機ネットワーク情報センター中級エンジニア)
- 15 : 00~15 : 15 「牛からのメタン排出を定量化するための堅牢なデータ駆動手法」
Tebogo Sebake (アフリカ地球観測ネットワーク、ネルソン・マンデラ大学大学院学生)
- 15 : 15~15 : 30 討論
- 15 : 30~16 : 00 休憩
- 16 : 00~17 : 30 「セッション5 : 若手研究者と科学者の関与」
セッション5司会 : 阿部 修司 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター特任研究員)
- 五斗 進 (日本学術会議第二部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設ライフサイエンス統合データベースセンター教授)
- 能勢 正仁 (名古屋市立大学データサイエンス学部教授)
- 16 : 00~16 : 15 「データサイエンスの未来を支える : WDS-ECR ネットワーク活動の紹介」
*Maja Dolinar (リュブリャナ大学社会科学部上級管理役員、世界科学データシステム若手研究者ネットワーク共同議長)
- 16 : 15~16 : 30 「科学技術データ委員会コネクト若手・同窓ネットワーク構想」
Shaily Gandhi (CEPT 研究開発財団 応用地理情報学センター副センター長)
- 16 : 30~16 : 45 「学生を増やすにはまず教員増を : 統計エキスパート人材育成プロジェクトの紹介」
川崎 能典 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所 モデリング研究系教授・副所長)
- 16 : 45~17 : 00 「大学間連携プロジェクト「IUGONET」における若手研究者のためのデータサイエンス活動の紹介」
今城 峻 (京都大学大学院 理学研究科 附属地磁気世界資料解析センター助教)
- 17 : 00~17 : 15 「インドネシアの若手研究者としての研究データ管理コンプライアンス 迷路の道案内 : 国境を越えた政策の解明」

*Madiareni Sulaiman (インドネシア国立研究革新庁 研究データライブラリアン、ロンドン大学カレッジ情報学科 博士後期課程)

17:15~17:30 「中国国立天文データセンター (NADC) の DAEP0 プロジェクト」

*Shanshan Li (中国科学院国家天文台教育センター副所長)

12月15日(金): (全て英語)

10:00~12:00 「セッション6: アジア・オセアニア データフォーラム」

セッション6 司会: 村山 泰啓 (日本学術会議連携会員・国際サイエンスデータ分科会委員長、国立研究開発法人情報通信研究機構研究総括・ナレッジハブ長)

Juanle Wang (中国科学院地理科学与資源研究所教授)

Tyng-Ruey Chuang (台北中央研究院情報科学研究所主任研究員・教授)

芦野 俊宏 (日本学術会議連携会員(特任)、東洋大学国際学部教授)

10:00~10:05 「オープンサイエンスを基盤とした国際的なデータ共有の政策と実践」

村山 泰啓 (日本学術会議連携会員、情報学委員会国際サイエンスデータ分科会委員長、国立研究開発法人情報通信研究機構 研究総括・ナレッジハブ長)

10:05~10:15 「アジア・オセアニア地域におけるオープンサイエンス志向の活動の現状に関する調査」

渡邊 堯 (国立研究開発法人情報通信研究機構特別研究員)

10:15~10:30 「世界データシステム (WDS) のアクションプランと優先事項」

David Castle (ビクトリア大学 教授、国際学術会議世界データシステム (WDS) 科学委員会委員長)

10:30~10:45 「再現可能な研究データリポジトリの方向性」

Cheng-Jen Lee (台北中央研究院情報科学研究所プロジェクトマネージャー)

Tyng-Ruey Chuang (台北中央研究院情報科学研究所 主任研究員・教授)

10:45~10:55 「インド地磁気研究所の研究活動の概要」

A. P. Dimri (インド地磁気研究所所長)

10:55~11:05 「アジア・オセアニア地域における大学・研究所でのデータ出版活動の役割」

*Shaliza Ibrahim (マレーシア大学先端科学研究所教授)

11:05~11:15 「国立科学リポジトリ (RIN)」

Sjaeful Afandi (インドネシア国立研究イノベーション庁研究イノベーション推進副事務局長)

11:15~11:25 「オープンサイエンスへの動向: 中国国立宇宙科学データセンターの活動」

- Xu Qi (中国科学院国立宇宙科学研究所研究員)
- 11 : 25～11 : 35 「バングラデッシュ国立統計局におけるオープンガバメントデータ (OGD)」
Chandra Shekhar Roy (バングラデッシュ国立統計局シニアエンジニア)
- 11 : 35～12 : 00 討論
- 12 : 00～12 : 15 ポスターセッション (ライトニングトーク 3)
- 12 : 15～13 : 00 休憩
- 13 : 00～14 : 00 ポスターセッション (コアタイム 3)
- 14 : 00～15 : 30 「セッション 7 : GEO 寒冷地イニシアティブ (GEOCRI) と寒冷地におけるデータマッピング」
セッション 7 司会 : Yubao Qiu (中国科学院航空宇宙情報研究所 教授)
榎本 浩之 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所特任教授・副所長)
- 14 : 00～14 : 15 「天山山脈における雪の特性調査と雪崩の危険性」
Lanhai Li (中国科学院新疆生態与地理研究所教授)
- 14 : 15～14 : 30 「チベット高原における氷河進化と関連する氷河前進湖の長期記録 1976-2020」
*Lhakpa Dolma (中国科学院チベット高原大気環境科学研究所上級技術者)
Yubao Qiu (中国科学院航空宇宙情報研究所教授)
- 14 : 30～14 : 45 「北極・南極地域におけるデータ管理」
矢吹 裕伯 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際極域・地球環境研究推進センター特任教授)
- 14 : 45～15 : 00 「防災科学技術研究所 (NIED) によって作成された雪氷災害予防情報の活用」
山口 悟 (国立研究開発法人防災科学技術研究所上席研究員)
- 15 : 00～15 : 15 「デジタル北極域環境情報サービス」
Yubao Qiu (中国科学院航空宇宙情報研究所教授)
- 15 : 15～15 : 30 討論
- 15 : 30～16 : 00 休憩
- 16 : 00～17 : 30 「ストラテジック ディスカッション・閉会挨拶」

ストラテジック ディスカッション司会： 渡邊 堯（国立研究開発法人情報通信研究機構特別研究員）

Juanle Wang（中国科学院地理科学与資源研究所教授）

16：00～16：05 「ストラテジック ディスカッションの背景と展望」

渡邊 堯（国立研究開発法人情報通信研究機構特別研究員）

16：05～16：40 DSWS-2023 各セッションのレビュー報告

セッション1：データシステムとネットワークの課題

セッション2：オープンサイエンスと FAIR 原則

セッション3：COVID-19 データから得られた教訓

セッション4：データサイエンスの最近の進展

セッション5：若手研究者と科学者の関与

セッション6：アジア-オセアニア データフォーラム

セッション7：GEO 寒冷地イニシアティブ（GEOCRI）と寒冷地におけるデータマッピング

16：40～17：00 補足コメントと討論

17：00～17：10 アクションプラン

17：10～17：15 ストラテジック ディスカッションのまとめ

閉会挨拶司会：金尾 政紀（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター准教授）

17：15～17：30 閉会挨拶

Jonathan Kool（オーストラリア南極局データセンター長）

*Noorsaadah Abd Rahman（マレーシア大学先端科学研究所教授）

金尾 政紀（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター准教授）

ポスターセッション（於：1 F 講堂・2 F 大会議室）

12月13日（水）：

11：50～12：05 ポスターセッション（ライトニングトーク 1）

13：00～14：00 ポスターセッション（コアタイム1）

ライトニングトーク1 司会：家森 俊彦（京都大学名誉教授）

五斗 進（日本学術会議第二部会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設ライフサイエンス統合データベースセンター教授）

「WDS アジア・オセアニアネットワークのウェブサイト構築」

渡邊 堯（国立研究開発法人情報通信研究機構特別研究員）

「アジア諸国間のデータとメタデータの共有」

金尾 政紀 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター准教授)

「FAIR データの公開を容易にするためのメタデータ及びデータ記録システム」

Luke Harry Marsden (ノルウェー気象研究所スバルバル大学センター ナンセンレガシイプロジェクト・データマネージャ)

「韓国政府の研究資金を受けている研究所における研究データ公開方針に関する調査」

Jung-Ho Um (韓国科学技術情報研究院上級研究員)

「インドネシアにおけるオープン研究データへの挑戦：国立科学リポジトリ (RIN) の例」

Seno Yudhanto (インドネシア国立研究イノベーションイノベーション推進副事務局長)

「MosquitoDB：蚊媒疾患の制御と根絶のための包括的な電子ベースの昆虫学的監視システム」

Victor Mero (イファカラ保健研究所研究員)

Janice Maige (イファカラ保健研究所研究員)

「Covid-19 パンデミック時の行動変容に対する情報の効果：日本、英国、台湾の国際比較研究」

*加藤 直子 (桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群准教授)

「マグダスプロジェクトにおける若手研究者のための教育活動」

阿部 修司 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター 特任研究員)

12月14日(木)：

12：00～12：15 ポスターセッション (ライトニングトーク2)

13：00～14：00 ポスターセッション (コアタイム2)

ライトニングトーク2 司会：*Elaine Faustman (ワシントン大学環境職業健康科学部教授)

*箕輪 真理 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設データサイエンス推進室特任准教授)

「日本の都市間比較に基づく SARS-CoV-2 のゲノムサーベイランス」

阿部 貴志 (新潟大学大学院自然科学研究科教授)

「SARS-CoV-2 の広範な変異系統におけるオリゴヌクレオチド使用法の教師なし AI 解析」

池村 淑道 (長浜バイオ大学バイオデータサイエンス学科客員教授)

「SARS-CoV-2 の宿主細胞依存的なゲノム変化」

岩崎 裕貴 (長浜バイオ大学バイオデータサイエンス学科助教)

「SARS-CoV-2 HaploGraph : 日本における SARS-CoV-2 ハプロタイプの感染拡大の可視化」

中川 草 (東海大学大学院医学研究科准教授)

「日本における都市マイクロバイオームのモニタリング : MetaSUB 国際コンソーシアムにおける共同研究」

鈴木 治夫 (慶應義塾大学環境情報学部准教授)

「ショットガンメタゲノムシーケンスを用いた日本の建築環境における微生物多様性と耐性決定因子の比較」

*Dewa A. P. Rasmika Dewi (国際医療福祉大学医学部助教)

「環境表面から RNA ウイルス叢を捕捉するための rRNA 除去法の評価」

志波 優 (東京農業大学応用生物科学部准教授)

「廃水疫学による COVID-19 アウトブレイクの早期検知」

本多 了 (金沢大学大学院自然科学研究科教授)

「日本におけるウイルス性感染症の排水疫学の実施」

北島 正章 (北海道大学工学研究院准教授)

「空気中の低密度 RNA サンプルから SARS-CoV-2 を検出するための実験手法の検討」

植竹 淳 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授)

12月15日(金) :

12:00~12:15 ポスターセッション (ライトニングトーク 3)

13:00~14:00 ポスターセッション (コアタイム 3)

ライトニングトーク 3 司会 : 門倉 昭 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター長)

能勢 正仁 (名古屋市立大学データサイエンス学部教授)

「データ同化を用いた歴史的な気象再構築のための地表観測およびモデルベースの雲被覆特性の分析」

*王 小醒 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター特任研究員)

「(Ni-Fe-Co-Ce) Ox 触媒の電気化学的酸素発生活性を解釈するための説明可能な AI フレームワーク」

Paul Rossener Regonia (フィリピン大学ディリマン校助教)

「機械学習技術を用いた 5 歳未満の死亡要因の予測モデリング」

Rakesh Kumar Saroj (ジャワハルルール・ネルー大学計算統合科学学部助教)

「デジタルイノベーションは、インドネシアにおける COVID-19 制限への人々の行動をどのように変革できるか」

Kiki Adhinugraha (オーストラリア ラトロブ大学コンピュータ科学・情報テクノロジー学部講師)

「高気圧酸素療法」

*Norihan Abdelaziz Elgazzar (エジプト タンタ大学特任講師)

「南極昭和基地の MST/IS (PANSY) レーダーのデータ公開と共同研究インフラ」

橋本 大志 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所先端的レーダー研究推進センター助教)

「AMIDER プロジェクトの進捗状況」

小財 正義 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設極域環境データサイエンスセンター特任研究員)

「手作り地球儀で体感する衛星データ全球海水分布に関する授業への取り組み」

杉村 剛 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際極域・地球環境研究推進センター特任助教)

「極域の海水データを利用した高校理科・数学の授業実践」

丹羽 淑博 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所国際極域・地球環境研究推進センター特任研究員)

「独立成分分析の適用による南極研究用衛星重力データの解析」

施 天焰 (京都大学地球熱学研究施設研究機関研究員)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「水産・海洋分野における AI の役割と課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会、食料科学委員会水産学分科会
2. 共 催：水産・海洋科学研究連絡協議会、日本農学アカデミー、日本水産学会
3. 後 援：大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、水産海洋学会、日本付着生物学
会、日本魚病学会、国際漁業学会、日本ベントス学会、日本魚類学会、地
域漁業学会、日仏海洋学会、日本海洋学会、日本水産増殖学会、マリンバ
イオテクノロジー学会、日本水産工学会、日本プランクトン学会、漁業経
済学会、日本藻類学会、日本海洋政策学会
4. 日 時：令和5年（2023年）12月15日（金）13：00～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

スマートデジタル技術を活用した水産業の構造転換や、水産資源や海洋生態系の保全を
図る活動が活発化する中で、AI の役割が注目されている。前者については、漁業における
漁場探索やセリでの魚を見る力、養殖における餌やりなど、漁業者の経験や勘が活きてい
る分野があげられる。こうした「人」に依存した経験や勘をデータ化して活用することが
AI の重要な役割となり、高齢化した漁業者の持つ技術を若い世代に引き渡し、産業として
活かすことにつながる。後者については、あらたな環境/生態系/水産資源モニタリングの
展開と、収集されたビッグデータの学習により再帰型 AI 等による将来予測が期待される。
さらに AI は、生産・流通システム全体の最適化のほか、ビッグデータの解析などを通じて
研究開発や人材育成にも広く影響が及ぶと期待される。また、水産現場や各種モニタリン
グにおいて、無人化あるいは省人化が今後ますます必要になり、その実現のために AI を含
めたデジタルツインの手法が活用されると見込まれる。本シンポジウムでは水産・海洋
分野における AI の役割と課題を考えることにより、漁業・養殖業のあり方や水産・海洋科
学の将来像を展望する。

9. 次 第：

13：00 開会の挨拶と趣旨説明

大越 和加（日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授）

13：10 基調講演「AI で何ができるか／何をするか？－AI 利用の現状・展望と課題」

和田 時夫（日本学術会議連携会員、一般社団法人全国水産技術協会専務理事）

『スマート水産業の推進』

（座長）笠井 久会（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院准教授）

13：40 「スマート水産業の施策」

金子 貴臣（水産庁増殖推進部研究指導課課長補佐）

14：05 「漁場予測」

矢吹 崇（一般社団法人漁業情報サービスセンターシステム企画部グループリーダー）

14：30 「AI 時代の資源評価用体長データ収集のあり方」

柴田 泰宙（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター漁業情報解析部情報企画グループ長）

14：55 「養殖業における運用」

萩原 篤志（日本学術会議連携会員、長崎大学名誉教授・特任研究員）

15：20～15：30 休憩

『将来展望と課題』

（座長）窪川 かおる（日本学術会議連携会員、帝京大学先端総合研究機構客員教授）

15：30 「微生物生態系の AI モデリングと恒常性評価」

菊地 淳（国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センターチームリーダー）

15：55 「水産・海洋分野における AI の市場性」

和田 雅昭（公立はこだて未来大学システム情報科学部教授）

16：20 パネルディスカッション

（司会）中田 薫（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人水産研究・教育機構理事）

石若 裕子（ソフトバンク株式会社 IT 統括 IT&アーキテクト本部アドバンスドテクノロジー推進室担当部長）

菊地 淳（国立研究開発法人理化学研究所環境資源科学研究センターチームリーダー）

柴田 泰宙（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター漁業情報解析部情報企画グループ長）

高瀬 美和子（大日本水産会参与）

萩原 篤志（日本学術会議連携会員、長崎大学名誉教授・特任研究員）

和田 雅昭（はこだて未来大学システム情報科学部教授）

17：25 閉会の挨拶

佐藤 秀一（日本学術会議連携会員、福井県立大学海洋生物資源学部教授）

17：30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「原子力総合シンポジウム 2023」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会、総合工学委員会原子力安全に関する分科会
2. 共 催：一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本アイソトープ協会、日本アーカイブズ学会、一般社団法人日本応用地質学会、日本海洋学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本核医学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、日本混相流学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、公益社団法人日本心理学会、一般社団法人日本電気協会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本放射化学会、一般社団法人日本放射線影響学会、一般社団法人日本保全学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人プラズマ・核融合学会（以上全て予定）
3. 後 援：一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会、日本海水学会、公益社団法人日本技術士会、公益社団法人日本コンクリート工学会、一般社団法人日本地質学会、公益社団法人日本農芸化学会（以上全て予定）
4. 日 時：令和6（2024）年1月22日（月）13：00～17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室6-A（1）（東京都港区六本木7-22-34）
（ハイブリッド開催）（利用する会議室数1、使用目的：原子力安全に関する分科会の開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
原子力総合シンポジウムは、我が国の原子力について総合的に議論を行う場である。日本学術会議と日本原子力学会等が協力し、各界の識者を交えて、これまで50年以上にわたり中長期的視点から議論が行われてきた。

今年度は、我が国を取り巻く社会情勢が刻々と変化する中において、革新炉の研究開発を含む今後の原子力の役割と課題について議論する。

9. 次 第：

13:00-13:10 開会挨拶 関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

招待講演（13:10-15:40）

テーマ：「社会に貢献する原子力の役割と課題」

司会 森口 祐一（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事）

13:10-13:40（講演タイトル調整中）

橘川 武郎（国際大学副学長・国際経営学研究科教授）

13:40-14:10（講演タイトル調整中）

寿楽 浩太（東京電機大学工学部教授）

14:10-14:40（講演タイトル調整中）

山口 彰（公益財団法人原子力安全研究協会常勤理事）

14:40-15:10（講演タイトル調整中）

岡田 往子（内閣府原子力委員会委員）（調整中）

15:10-15:40（講演タイトル・講演者調整中）

（原子力規制委員会・規制庁）

総合討論（15:50-17:00）

コーディネーター 関村 直人（日本学術会議連携会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

パネリスト

シンポジウムの各講演者、

司会 森口 祐一（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事）

新堀 雄一（一般社団法人日本原子力学会会長）

岩城 智香子（日本学術会議連携会員、東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

17:00-17:10 閉会挨拶：小山田 耕二（日本学術会議第三部会員、大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

主催：一般社団法人男女共同参画学協会連絡会

期間：令和5年10月14日（土）

場所：東京大学本郷キャンパス弥生講堂一条ホール（ハイブリッド開催）

参加予定者数：約210名

申請者：一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 第21期委員長 半場 祐子

審議付託先：科学者委員会

審議付託結果：科学者委員会承認

○今後の予定

●幹事会

第354回幹事会	令和5年10月3日(火)	17:00から
----------	--------------	---------

第355回幹事会	令和5年10月4日(水)	15:30から
----------	--------------	---------

●総会

第189回総会	令和5年10月2日(月)～4日(水)
---------	--------------------